



OCHIS

健診率アップで事故減

健診結果の見方&活用勉強会

【大阪】健康起因事故の発生件数が増加傾向にある中、ヘルスケアネットワーク(OCHIS)は3月26日、「健診結果の見方&活用勉強会」を開催。作本貞子理事は冒頭「中

小・零細企業が大半を占める業界で、定期健康診断は受けても2次健診のフォローまで手が回らないという状況がある」と指摘。その

の確認の再徹底を发出していることを説明。その上で、刑事責任をはじめ行政責任や社会的責任に加え、「事業者の安全配慮義務違反によって民事損害賠償責任のリスクが経営を脅かしている」と、健康管理の把握の重要性を述べた。

また、作本理事は健康診断率100%を達成した事業者の取り組み事例を紹介し、「健診率を70%から100%にアップさせた結果、事故は当初より車両と労災事故ともに減少した。経済効果もあった」と、必要性和効果

を訴えた。勉強会では、黒田悦子保健師が受講者の健診結果やサンプル健診結果を参考に、定期健康診断の役割や各検査項目の見方をはじめ、労災保険の2次給付制度や健診データの活用方法などについて解説。

さらに、事業者の定期健康診断結果を預かりデータ管理するサービスを紹介。作本理事は「OCHISの統一データを活用し、受診データの比較から浮かび上がった要再検者、要精密検査・要受診者をピックアップして、保健師面談や社内教育まで行い、事業者自身では困難な健診後のフォローをサポートしている」と説明した。

平成22年7月に国交省は「事業用自動車の運転者の健康管理に関するマニュアル」を策定。その後、昨年10月に「健康状態

(山田克明)